

「熱測定」編集要綱

1983年7月制定

- (1) 「熱測定」(Netsu Sokutei, 副次的標題“Calorimetry and Thermal Analysis”)は日本熱測定学会と全会員を結ぶ恒常的紐帯であるとの認識に基づき、熱測定(熱量測定, 熱分析, その他の熱力学測定)の全分野にわたって配慮しつつ、本邦における熱測定関係の最も権威ある定期刊行物として広く認められることを目標として編集する。当面、年間4冊で、通し頁をつける。
- (2) 本誌の内容を、a) 論文、ノート、総合論文、b) 巻頭言、総説、解説、資料、実験ノート、技術ノート、講座、トピックス、報告、会告、随想、研究室紹介、プロフィール、会員の頁、質問箱、レポート、各種記事、などに大別する。
- (3) 前項 a) の論文、ノート、総合論文は原著学術報告であって、「論文投稿規定」、「投稿手引」にそった投稿によるものとする。レフェリーの査読を経て編集委員会で採否を決定する。原稿の取扱いについては内規に定める。
- (4) (2) b) の各項目は編集委員会からの依頼および会員からの自発的投稿によるものとする。投稿原稿の取扱いは内規に定め、採否は編集委員会で決定する。依頼、投稿のいずれの場合も、原稿の一部書きかえを要望することがある。
- (5) 各号には原則として、論文、ノート、総合論文のうちから少くとも一編、総説または解説を少くとも一編掲載する。他の項目は適宜選択して掲載する。
- (6) 論文は印刷物として未発表のもので、熱測定(熱量測定, 熱分析, その他の熱力学測定)および関連領域における独創的研究で、価値ある事実や結論、新しい技術の開発を含むものとする。
- (7) ノートは熱測定および関連領域における断片的研究であって、新しい事実や価値あるデータ、価値ある新しい技術的知見(実験方法, 装置や測定上のノウハウ)を含むもので、著者が将来引用できるレベルのものとする。
- (8) 総合論文は熱測定および関連領域の研究であって、既に他の学術雑誌に一連の原著学術論文として掲載されたものの内容を簡潔に総合し、質的に新たな総合的知見を加え、また、ノウハウ的な部分を加味したものとする。
- (9) 総説と解説は熱測定および関連領域の種々の課題や最近の進歩について参考文献を付して総括的に解説するもので、特に総説は著者の観点が明確に出ているものが望まれる。また、「熱測定の進歩(熱・温度測定と熱分析の改題, 1983年版より改正)」が進歩総説を中心とする関係上、本誌の総説、解説はトピックス的要素の比較的強いものが望ましい。200語以内の英文要旨を付す。
- (10) 技術ノート、実験ノートは著者が行った研究実験、技術開発で生まれたアイデアやノウハウ、経験した事柄で、一般読者の参考になる可能性をもつものを具体的に紹介するものとする。積極的な投稿が期待される。
- (11) 講座は重要な基礎的知識についての講義または解説であって、講習会用テキストとしてそのまま使用できるよう留意して執筆する。
- (12) その他の項目については本誌バックナンバーを参照されたい。
- (13) 技術ノート、実験ノートは原則として刷上り2頁以内とするが、内容によってはこれを超えることを認める。総説、解説、講座は原則として刷上り10頁以内とする。いずれも、簡潔な表現で豊富な内容を盛り込むことが期待される。
- (14) 和文は400字づつ原稿用紙5枚が1頁、英文は論文投稿規定所載の要領でタイプした原稿4枚が1頁に相当する。図については論文投稿規定3.4を参照のこと。
- (15) 論文、ノート、総合論文以外の原投についても論文投稿規定、投稿の手引を準用して原稿を作製する。
- (16) 論文、ノート、総合論文については最低50部の別刷購入を義務づける。総説、解説、講座、資料については10部を贈呈する。
- (17) 本誌を出版物等で引用する際の表記法は、和文の場合は「熱測定」、英文等の場合は「Netsu Sokutei」または「Netsu Sokutei (Calor. Therm. Anal.)」である。

以上